

1. 職名・氏名 教授・北島啓嗣

2. 学位 学位 博士、専門分野 総合政策、授与機関 中央大学、授与年月 2005.7

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マーケティング論（2単位・毎年開講）2年次	
②内容・ねらい マーケティング戦略を中心に講義した。マーケティングの入門的なレベルの知識を身に付けさせるとともに、マーケティングの視座から企業の様々な活動を分析するマインド・思考方法の醸成を目指した。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 教科書を使用し、基礎概念の取得に時間をかけた。 本年度は、事例のアップデートを行った。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 消費者行動論（2単位・隔年開講）2年次	
②内容・ねらい 消費者行動論とは、消費者の生活行動と購買行動を分析する学問であり、特に購買行動に重点がある。消費者行動を分析するための理論を身に付けること、消費者行動の理解がどのように企業経営に活かされているか理解すること。以上の目標を掲げる。（本年不開講、担当変更）	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 消費者行動論はマーケティングの基礎となるもので、行動科学、心理学に立脚した分析が多いが、極めて学際的なものでもある。講義は2年生を対象とするため、この多様なディシプリンの違いを紹介し、様々な視点から購買行動にアプローチしている。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 広告論（2単位・毎年開講）3年次	
②内容・ねらい 「広告」を、企業経営全体との関連を重視し戦略的視点から講義する。広告立案の目的・意図を理解できる力を養うこと、広告を手がかりに企業経営全体への関心を惹起すること 以上2点の目標を掲げる。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義のウェイトを下げ、チームその他でのディスカッション、プレゼンテーションなどを大幅に取り入れ、参加型のいわゆるアクションラーニングを行った。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 流通論（2単位・隔年開講）2年次	

②内容・ねらい  
本年度開講の新科目である。  
年々ウェイトが高まる流通業。サービス業を踏まえ学生ニーズ、進路をにらんで開講した。理論的側面を重視する。

③演習・実験・実習運営上の工夫  
講義のウェイトを下げ、チームその他でのディスカッション、プレゼンテーションなどを大幅に取り入れ、参加型のいわゆるアクションラーニングを行った。

担当変更本年度不開講

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
演習Ⅰ （4単位・毎年開講）3年次

②内容・ねらい  
マーケティング戦略の分析手法を理解する。企業は消費者の動きにいかに対応しているかを理解する。ゼミにおける発表を通して、プレゼンテーション能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
前期は教科書の輪読によって、基礎力を養い、後半は、外部の様々なコンクール、プレゼンテーションの場に参加している。SMAP インターゼミナールコンテスト等に参加している。また、福井市内企業見学を実施した。  
また、自主ゼミが運営されている。岩手県立大学と合同インゼミを開催した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
演習Ⅱ （4単位・毎年開講）4年次

②内容・ねらい  
大学生活の集大成たる卒業論文の作成を通じて、社会に出た以降も通用する文章力、調査能力、思考力、表現力を育成する。卒論の作成を目標に、文献・調査研究をおこなっていく。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
「演習Ⅰ」その他で培った能力を基礎に、自分が選定したテーマに対し、いかに深い問題を設定することができるか、そしてその問題を解決・解消するために何が出来るかを問う運営で、特に自主性を尊重して運営している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
マーケティング戦略論（大学院）

②内容・ねらい  
修士論文作成のための基礎として、基礎概念の取得を行っている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
教科書の輪読を中心に実施しているが、その他、研究のための、基礎手法に関する講義も取り入れている。また、外部の実務者を招聘し、実務関連のケーススタディも行っている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
2019年 演習（博士後期課程）

②内容・ねらい  
マーケティング戦略に関するケーススタディおよび論文を輪読。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 研究のための、基礎手法に関する講義も取り入れている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 （大学院）
②内容・ねらい 修士論文作成を目標に、基礎概念の取得、文献の講読を行っている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  教科書の輪読を中心に実施しているが、その他、研究のための、基礎手法に関する講義も取り入れている。また、外部の実務者を招聘し、実務関連のケーススタディも行っている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 2011年よりマーケティング戦略論
②内容・ねらい マーケティング戦略に関するケーススタディおよび論文を輪読。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  研究のための、基礎手法に関する講義も取り入れている。図書館等での演習も行っている。
(2)非常勤講師担当科目
なし

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文  「マルチフランチャイジー経営者の役割」戦略経営ジャーナル 2017年6月5巻第2号  「定性研究の理論的射程」戦略経営ジャーナル 2017年10月5巻3号（共著） 「地域をマーケティングで考える」和歌山大学経済学会『研究年報第22号』2018年 pp. 73-84 「販路開拓現状と課題」『地域公共政策研究』2019年 「大型店の両面市場性」『中央大学経済研究所年報第51号』2019年 「販路開拓への自治体の政策」『地域公共政策研究』2019年11月
②著書
③学会報告等  講演「マーケティングセオリーと百貨店経営」百貨店経営研究会 2017. 3. 14 学会発表「市場における地域産品」地域政策学会全国大会 2017. 7. 1 中央学院大学 シンポジウム事例報告「買い物弱者に対する流通業の取り組み」北陸政策研究フォーラム 2017. 1. 22 学会発表「地域商業施設の比較研究」地域政策学会全国大会 2018. 7. 岡山大学 学会発表「教育活動としてのストアコンパライズン」経済教育学会全国大会 2018. 9 大阪教育

大学  
学会発表 「基調講演：販路開拓 その現状と課題」地域公共政策学会 秋期大会 永平寺町  
2018. 11  
学会発表 「FC 外食産業における加盟店経営者の行動」日本商業学会 2009. 6  
「高大連携：高校経済経営研究指導の課題」経済教育学会 2009. 9  
「直営と開拓の問題 S 市物産協会とのヒヤリング・ディスカッションを通じて」北陸政策フォーラム 2009. 12

④ その他の公表実績

「効果的投資と人材育成への戦略的思考の必要性を問う」ストアーズレポート 2017.1 月号  
「日常のかつ身近なライバルを再考する」ストアーズレポート 2017 年 5 月号  
「百貨店の DNA は変化である」ストアーズレポート 2018. 1 月号  
「コト消費時代に対応する」ストアーズレポート 2018 年 5 月  
「アジアと結びつく沖縄」2019 年 5 月ストアーズレポート  
「自治体販路開拓調査報告書」2019 年 3 月

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動

日本地域政策学会全国大会 司会 2016.9

国際戦略経営研究学会全国大会 司会 2015.9 2016.9 2017. 9 2018. 9 2019. 9

学会での役職など

国際戦略経営研究学会理事 (2017.9-)

地域政策学会 学会誌編集委員(2012-)

学会・分科会の開催運営

国際戦略経営研究学会 戦略理論研究会 副世話人 (2008.6-)

関西戦略研究会 世話人

(3)研究会活動等

① その他の研究活動参加

「マーケティング・チャネルにおける価値創出と価値専有メカニズムに関する理論的・実証的研究」基盤研究 (B) (一般) (H27-H29) 研究分担者として研究会に参加

② その活動による成果

科研費応募・論文成果につながり、また、研究発表の場になっている。

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

外部資金

福井県立大学研究助成 D 枠 研究代表者 北島啓嗣

戦略的課題研究 地域ブランドの販路開拓 研究代表者

## 科研費

マルチフランチャイジーの両面市場性に関する研究 基盤研究 C (研究代表者)

マーケティング・チャネルの硬直性：機敏なチャネル転換を阻む原因の探求基盤研究 B (研究分担者)

「マーケティング・チャネルにおける価値創出と価値専有メカニズムに関する理論的・実証的研究」基盤研究 (B) (一般) (H27-H29) 研究分担者

「流通業・大型店のマネジメント・コントロールシステムの解明」基盤研究 (C) (H27-H29) 研究代表者

## 5. 地域・社会貢献

### (1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会  
福井市農林水産加工品認定事業審査会会長 (2009. 9-)

②国・地方公共団体等の調査受託等

③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加

北陸政策フォーラム運営委員 (2018 年度福井開催実行委員)

④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動

産学連携 企業との共同研究協定 2016-

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

中央大学政策文化研究所客員研究員 (2005-現在)

中央大学経済研究所客員研究員 (2005-現在)

⑥その他 マスコミ対応

福井新聞社

### (2)大学が主体となっている地域貢献活動等

① 公開講座・オープンカレッジの開講

短期ビジネス講座 講師 講師(2016 2017 は講師のみ)

COC+ 「福井で働くということ」講師 2016-2018

オープンカレッジ「高校生の研究指導講座」2019 年前期

「社会人が大学院で学ぶこと」後期

② 社会人・高校生向けの講座

福井県立藤島高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業・講師

福井県庁主催 高大連携講座「福井プレカレッジ事業」 マーケティング コーディネータ・講師 2016 2017 2018、2019

跡継ぎベンチャー支援事業 大学連携センターにおける後継者育成講義（公益財団法人ふくい産業支援センター）2019年

③ その他

(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）

大学院専攻長

(2)委員会・チーム活動

福井県立大学論集編集委員（委員長 2017）

大学院委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など